

令和6年度「地域課題の解決に向けた協働推進事業」実施結果

(事業名) 地域と文化芸術をつなぐ人材の育成支援事業

実施主体

(団体名) 株式会社スタジオグットフラット
(担当課名) 文化振興課



背景

文化芸術活動は、伝統文化の継承や地域コミュニティ形成の一助を担う重要な役割を果たしている。しかし、人口減少や少子高齢化を背景に、活動の担い手不足や運営資金不足、観客・来場者の減少などにより、その維持が困難となっている。これにより、行事や実施団体の中止・解散、交流人口の減少、文化芸術体験の地域間格差などの課題が生じている。

地域課題

文化芸術活動の機会損失: 行事の中止や団体の解散が増加
地域の活力低下: 交流人口が減少し、地域の魅力が低下
体験格差の拡大: 地域間で文化芸術へのアクセスが不均衡
人材不足: 魅力的な企画を立案し、持続可能な運営を担える人材が不足
教育・学びの場の不足: 文化芸術分野における専門教育機関や学べる機会が少ない。
行政評価の難しさ: 文化芸術活動の成果が見えづらく、継続的な支援が難しい。

事業のねらい

地域における持続可能な文化芸術活動を促進する人材の育成を目的とし、文化芸術活動の創出や継続、地域内への交流人口増加、体験格差の縮小などに繋げていく。

事業概要

地域における文化芸術活動の持続可能性を高め、地域づくりに寄与する人材を育成することを目的として、計4回のセミナーを開催。

参加者は全4回の一貫したプログラムを通じて、企画立案や体験デザイン、広報PR、持続可能な活動運営に関する知識と実践的なスキルを習得した。

対象

文化芸術活動に取り組む方・関心のある地域住民、文化施設の職員等

内容

- ・魅力的な企画立案(キュレーションや体験デザイン)スキルの提供
- ・効果的な広報PRや資金計画など、持続可能な運営スキルの習得
- ・セミナーやワークショップの開催による実践的な学びの場の提供



成果

多様な知識の習得

各回で異なるテーマのレクチャーとワークショップを行い、文化芸術活動を企画・運営する上で必要な知識を幅広く学んだ。特に、企画づくり(1回目)から持続可能性を考える視点(4回目)まで一貫した学びの流れが、実践的なスキル向上に寄与した。

具体的な企画案の作成

参加者はセミナーを通じて地域での文化芸術活動を想定した企画案を作成した。体験デザインや広報資料の作成を含む実践的な内容を学び、最終回ではそれぞれの企画案を発表し、フィードバックを受けた。これにより、実現可能性の高いアイデアが育まれた。

ネットワークの形成

県内外で活躍するゲスト講師や他の参加者との交流を通じて、新たなネットワークが構築された。このつながりは、今後の文化芸術活動の継続や拡大に役立つ基盤となると期待される。



協働の状況

- 株式会社スタジオグッドフラット
事業実施主体
- 県文化振興課
周知・広報, 方向性協議
- 菅野康太(鹿児島大学法文学部准教授)
次年度以降の取組に関する相談と助言

今後の取組

セミナーで得られた成果を基に、以下の取り組みを通じて地域における文化芸術活動の発展と人材育成を継続していく。

助成事業の継続的な実施

助成事業を活用しながら安定的な文化事業の実施を図り、新たな文化事業参加者の獲得を目指す。

大学等との連携

美術を専門とする教育機関や地域の大学との連携を進め、新たな人材の発掘と育成に取り組む。若い世代へのアプローチを強化することで、文化芸術分野の裾野を広げることを目指す。

参加者等との継続的なコミュニケーション

セミナー参加者や講師とのネットワークを活かし、継続的な情報共有やフォローアップを行う。活動状況を把握し、必要に応じて支援を行うことで、個々の企画や活動の発展を後押しする。



協働事業の感想

団体からの声

文化振興課との協働により、県全体としての文化振興に関する課題感を共有することができた。行政と民間でできること、できないことが明確になり、文化振興の現状と課題をより深く理解することができた。また、参加者とのグループワークを通じて、地域文化振興における具体的な課題感が浮き彫りとなり、今後の取り組みへの重要な示唆を得ることができた。

担当課からの声

計4回のセミナーの開催により、文化芸術に取り組む方の感じる課題や、本県の文化芸術活動全体に対する実情・課題を把握することができた。また、協働団体とも課題の共有を行ったことで、今後取り組むべき方向性や支援方法を検討することができた。